

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞）「紫式部日記 ～若宮誕生～」問題②

行幸近く①なりアぬとて、殿の内をいよいよ②つくりみがかイせ③給フ。よにおもしろき菊の根を④たづねツつ、  
⑤掘りて⑥参ル。色々⑦うつろひウたるも、黄なるが見どころ⑧あるも、さまざまに⑨植ゑ立エたるも、朝霧の絶え  
間に⑩見わたしオたるは、げに老いも⑪しづきカぬキべき心地⑫するに、なぞや。まして、⑬思フことの少しも  
なのめなる身クならケましかば、すきずきシくも⑭もてなし、⑮若ガぎて、常なき世をも⑯過バしコてサまし。  
めでたきこと、おもしろきことを⑰見フ聞くに⑯つけても、ただ⑯思ヒかけシたりスし心の⑯引ク方のみ強くて、  
もの憂く、㉑思ハすに、嘆かしきことの㉒まさるゾ、いと苦しき。いかで、今はなほ、㉓もの忘れシなシむ、  
思ひがひもなし、罪も深かタなりなど、㉔明けたてば㉕うちながめて、水鳥どもの㉖思フことなげに㉗遊び合ヘチル  
を㉘見る。

水鳥を水の上とやよそに㉙見フむ我も浮キたテたる世を㉛過グしつ

かれも、さこそ心を㉚やりて㉛遊びと㉜見フれど、身はいと苦しかんトなりと、㉝思ヒよそへナらる。

# 古文 品詞分解（動詞・助動詞）「紫式部日記 ～若宮誕生～」問題②

ラ四用 完了

カ四末

尊敬 ハ四終

ナ下二用

行幸近く①なりアぬとて、殿の内をいよいよ②つくりみがかいせ③給ふ。よにおもしろき菊の根を④たづねつ、

ヲ四用 ラ四終

ハ四用 存続

ラ変体

タ下二用 存続

掘りて⑤参る。色々⑦うつろひウたるも、黄なるが見どころ⑧あるも、さまざまに⑨植ゑ立てエたるも、朝霧の絶え

サ四用 完了

カ四用 強意

サ変体

ハ四用

タ下二用

間に⑩見わたしオたるは、げに老いも⑪しづきカぬキべき心地⑫するに、なぞや。まして、⑬思ふことの少しも

断定 反実仮想

ガ四用

サ四用

サ四用 強意

ハ四用

なのめなる身クならケましかば、すきずきしくも⑭もてなし、⑮若やぎて、常なき世をも⑯過ぐしコてサまし。

カ四体

カ下二用

カ下二用

カ四用

サ変体

存続 過去

めでたきこと、おもしろきことを⑯見聞くに⑯つけても、ただ⑯思ひかけシたりスし心の⑯引く方のみ強くて、

ハ四末

タ四用

マ下二用

ハ四用

サ変用

強意 意志

もの憂く、㉑思はずに、嘆かしきことの㉒まさるぞ、いと苦しき。いかで、今はなほ、㉓もの忘れシナヅむ、

推定

カ四用

カ下二用

ハ四用

ハ四用

存続

思ひがひもなし、罪も深かタなりなど、㉔明けたてば㉕うちながめて、水鳥どもの㉖思ふことなげに㉗遊び合ヘチる

マ上一終

カ下二用

カ下二用

カ四用

サ四用

存続

水鳥を水の上とやよそに㉙見ツむ我も浮キたる世を㉛過ぐしつ

ラ四用

バ四終

マ下二用

推定

ハ下二用

自発

存続

かれも、さこそ心を㉚やりて㉛遊ぶと㉜見ゆれど、身はいと苦しかんトなりと、㉝思ひよそへナらる。